

り、幼児等はよく自由畫に描き充分感得してゐる様であるが、かうした新年の改つた機會にやはり童話等にでも仕組んで、我が日の丸は、明るき、清き、直き心を象徴してゐて、國家的に意義のある時に掲げられる所以を充分悟らせ、併せて形態に關する正しい觀念も與へたいと思ふ。

「幼児演出七匹の小山羊」 系統的保育案の實際によれば六月の半ばに談話で、十月の末に人形芝居で幼児に大分親しくなつてゐる七匹の子山羊、此の度は幼児の演出である。元來幼児は話よりも動作のついたものの方を喜ぶ事勿論であるが、今まで單に聞き、見てゐたものも自分達が演出する事によつてその話の面白さも充分に分る様になると思ふ。幼児演出は保育案によれば此一つであるが必ずしも此に限らない事は勿論である。たと劇的要素に富み、或程度話の性格を幼児等が擷んでゐるものを選ぶ事が必要である。はじめは保姆が中心になり、主役を受持つて演ずるのである。ことばも注意して選び簡潔なものをを用ひる。背景や道具等もあればよいのであらうが、何ものでもすぐそのものにみだてる幼児にはその爲に特別に作らなくても充分に遊べる様である。私の受持つてゐる年長組の女兒十一人はよくまとまつて遊ぶが、年少組のこの頃に七匹の子山羊を保姆が中心になつて數回演じたが、ことばのはしく、動作までよく覚えて居り、一年後の今日でも折にふれ時に應じて演じてゐる。衆議一決すれば保育室であらうと園庭の一隅であらうとたちどころに開演といふ有様である。幼児等の懂れの役は、食べられない子山羊と親山羊。嫌ふのは

狼。道具としてはストープは二人の子が手をつないで丸くし煙突は其の傍においてある椅子の上に一人が立ち、時計は扉の把手である、と例へばその様にその場々で忽ち揃つてしまふ。之を演じたのがきつかけになり、此の頃では舌切雀、一寸法師、三匹の子豚等、練習もなしに直ちに開演出来る有様である。時には一日でも愉快げに遊び私まで時の經つのも忘れて視覽してしまふ事がある。室内に於ける遊びが多くなる此の頃、適當に組を作つて演じさせ、互ひに見物するのも又愉快であらうと思ふ。

手技

及川ふみ

寒い季節の保育は、室内保育に一日の大部分を過す様に餘蘊なくされる日が多い。こんな時には又おちついて、幼児たちにさせる遊びや仕事を數多く考へておいて、外遊びの多い季節に出來がたいところの補ひをするといふ事も考へられる事である。

模様かき(一) 幼児たちに、自然の遊びのうちに、數の觀念を進める上に、又觀察のよい機會を作る爲にも模様かきの面白い遊びが出来る。

これをこゝろみ初めたのは十一月のはじめの頃、園庭に、いてふ、つた、どんぐりなどの澤山おちてゐる季節であつた。

拾つた葉をおしておいて、お帖面にはつて遊んだり、つたの葉柄では毎日、龜を作つて遊んだものであつた。とりわけいてふ

の葉は實に恰好がよく色も美しかつたのでそのまゝでも、よい模様であつた。幼児たちはいてふの葉を畫用紙の上にのせてその恰好のよいところをそのまゝ寫してゐた。こんなところから模様をかゝせるよい機會である。次の様なことを二三こゝろみてみた。

模様の材料は初めは平面の形のものが幼児たちには入りやすい様である。いてふの葉を畫用紙の上に平にのせて、片手でおさへながらその周圍の形をとるのである。模様は模様の一つの單位をつくつておいて、これを種々の形にならべて一つの模様をつくるのであるから、その單位になるところの模様の形や大きさは略々同じ位のものでなくてはならないのであるから單位になる模様の形を一つきめてそれを次々と寫してゆくのである。

模様をかゝせる事は時々保育の中にとゞらみられてゐる様ではあるが、模様といふものについて考へ、又これと同時にこれら幼児たちに如何に取扱つてゆくべきかを考へて實際に幼児たちにさせられてゐるのであるであらうか。たゞ「どんな様でもよいからこれで模様をかきませう」と保姆の方で不用意にはじめると幼児たちでもまかせに作つて模様も亂雜になり、塗る色もまどまらないで、極めて幼稚なものになり易いものである。

模様をかゝせる時には保姆の方で一通り模様についての考へをもつてゐて、ごく最初は少しは指導的態度をとつてやられた方がよい様である。

大體模様にはその單位の配列によつていろいろの様式があるのであるが、そんなむづかしい事はしばらくおいて、日常幼児たち

の幼稚園生活の實際の場合に得られるものについて考へさせて見るとよい。

先づ手近いところでは遊戯をする時の幼児たちの態形から考へさせて見た。一列にならんで、圓形を作る事は毎日の様に繰り返してゐるのである。

先づ第一にいてふの葉を葉柄の方を前にして一枚一枚順々に圓くなるやうに列べて形をどらせてみた。大體こんな形のものである事を實物を列べて見てその感じがとれてから一枚の葉を形どらせて次々と同じ葉の形をどらせてみた。入ツ切の畫用紙に實物大のいてふ(中位の大きさのもの)の葉が入枚で丸く圍める様になつた。丁度これは圖案の方でいふ圍み模様になつたわけである。お皿の模様や、丸い箱の蓋の模様として幼児らしさのよい味の出たものが出來た。この時幼児自身で中央にぎんなんの實を一つ畫きこむ事を考へ出したのでそのまゝかゝせてみた。一度の仕事の分量としてはこれで充分であつたのであるがよほど興味が出て來たと見えて續けて色をぬり出した。丁度その時のいてふの葉の色が一枚が眞黄色で、一枚が縁がみどり色がのこつてゐたのでその二枚の色のちがつたものを交互にぬらせた。その翌日地色を自分で考へて赤くした。美しい模様が出來上つた。おまゝごと遊びの美しいお盆にこしらへてもよい様であつた。

又一人には同じいてふの葉を二列の縦隊になる様にならべさせてみた。二枚づゝ揃へて列べて見ると丁度これは帯模様になるのである。圍み模様を畫いたのと同様に一枚の葉を次々と形どらせ

て作らせた。丁度二枚づゝ四つで八枚かけた。葉の色も地色も幼児が一人で考へてぬつたのであるが、黄色い葉とみどりの葉と二色を交互にぬつて、地色は褐色にしたところおちついたよい感じであつた。

次に二枚のいてふの葉を葉柄のところを組み合せて、蝶々の様な形において見せた。これは御遊戯の時に二人づゝ幼児たちが手をつないで歩いてゐる形からとつた。一組を上向におき、一組を下向においてみた。この上向、下向の蝶々を適當に案配すると丁度簡単な四方連続模様になるわけである。黄色のいてふの葉に、もゝ色の地色で可愛らしい。着替へ人形の着物に丁度よいものが出来上つた。

こんな仕事をしてゐると、いつもたゞ深山おちてゐるいてふの葉をばんやり拾ひあつめてゐたときよりも、形の上にも、色の上にも觀察が細かく出来て、模様につくる時にその觀察が直ぐに間にあつて仕事の上にはあらはれて来るのである。又數の事なども實際についてはつきりと數へなければならなくなつてきて精確になつて来る。

又模様材料についても幼児自身でいろ／＼と考へて材料になりそうな實物を探し出す様になる。

いてふで模様を作つてゐるうちに誰かどんぐりの模様がよいと云ひ出した。もう少し時期がおそいかとも考へたが折角云ひ出したのであるから次の人の材料にもと考へて數人の幼児とどんぐりを拾ひに出かけた。細長いどんぐりが二三十個もおちてゐた。

お猪口もあり葉もおちてゐた。よい獲物をもつて幼稚園にかへつて来た。どんぐりの模様についてはこの次の時に書き残すこと、して、たゞ今はいてふの材料でもない季節である。

たゞその時にある材料をどらへて、その材料の取扱ひ方の一端を御紹介するまでであるのである。お正月に手に入りやすい材料にどんなものがあるであらうか。幼児たちに親しみやすいものの中から見つけ出すことも一つのおもひつきではなからうか。

誘導保育

菊池ふじの

お正月 お正月に家庭の中で行はれたであらう行事——例へば門松のこと、部屋々々の飾り、注連繩、神棚のお飾りのことなど——。いつたであらう處——例へば宮城前に頼づいたこと、元朝詣りのこと、親類縁者訪問のことなど、又お正月、みんなで遊んだであらう事共——双六、歌留多、羽根つき、トランプ、福笑ひ、ゲーム遊び等についてこちらが聞いてあげる。子供はお休みの面白かつたこと、嬉しかつたことを話し度くて仕方がないのであるからそれを上手に聞いて上げる、かう言ふといふ容易なやうであるが、誰にでも言ひ度だけを言はせる、そして誰もが飽きないで靜肅に聞く、それも長い期間にはではなく、お正月のほとぼりの冷めない第三學期始業一週位の間の中で、と考へると、その實際的具體的方法はなかに六ヶ敷い。さうしたら徹底出